

# 令和6年度第2回庄原市外国語教育研修会

令和6年10月21日（月） 庄原市立庄原中学校

<研修会の目的>

- ・ 中学校外国語科の授業研究を通して、本市中学生の実態及び小学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- ・ 外国語科の授業づくりのポイントについて理解を深めるとともに、校区内の小学校、中学校の取組や状況について協議することを通して、本市外国語教育の充実に資する。

## 【研究授業】第2学年 Our Project④「『夢の旅行』を企画しよう

～日本の魅力をさらにアピールしよう～

授業者 庄原市立庄原中学校 教諭 安原 千尋、ALT Jesse Noe

### 本時の目標

伝える相手を意識して、日本の観光地を分かりやすく説明することができる。

<指導のポイント>

☆目的・場面・状況を明確にした単元ゴールの設定とストーリー性のある単元デザイン

⇒ALT 複数配置と韓国とのプラットフォーム事業のそれぞれの活動の目的・場面・状況などを明確にした言語活動を単元ゴールに設定し、伝える相手（外国人）を変えることで、相手意識をもって伝えるとはどういうことなのか、単元を通して考えていくストーリー性のある単元をデザインしている。

☆生徒の実態を踏まえ、スモールステップを踏んだ言語活動の設定

⇒パフォーマンステスト等の結果を丁寧に分析し、既習事項を活用する力が不十分であるという生徒の実態を踏まえ、スモールステップで既習表現をアウトプットする機会を設定するとともに、言語活動→中間指導を繰り返し、既習表現を用いて、相手に分かりやすく伝えるためのポイントを生徒に気付かせる。



## 【研究協議】 生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導の工夫について

<協議内容>

- スモールステップでの繰り返し指導は分かりやすく、効果的であると感じた。ICTの活用や相手意識をもたせること、目的・場面・状況などを明確にした場面設定などをしっかり考えていきたい。
- 中学校の授業でも、小学校の既習事項を活用していた。よく使う表現などは、小学校のうちにしっかり身に付けさせたいと思った。
- 小中のつながりの重要性を感じた。小学校でやり取りを充実させること、5、6年生で書くことにつなげること、多くの単語・表現に触れ、慣れさせることなどの大切さを校内で伝えていきたい。



## 【講話・交流・協議】 「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた外国語科の授業づくりについて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福原 理恵

■ 各校での学習評価の内容や方法等について交流した後、事例をもとに演習を行い、外国語科における学習評価について理解を深めた。

☑評価規準だけでなく、評価基準（評価の視点）を設定し、客観的に評価を行うこと

☑パフォーマンス評価を行う場合は、児童生徒の発話例を想定しておくこと

☑単元の中で複数回評価を行う場面を位置付け、積極的な評価を行うこと



### 【参加者の振り返りより】

- ・ 学習評価について悩む部分もあるが、他校の先生と交流する中で新たなヒントもあった。様々な面で適切に評価できるようにしていきたい。
- ・ 評価のための評価になっていたと改めて考える良い機会となった。児童の実態把握・授業改善に向けて、評価について考えていきたいと感じた。児童のために評価を生かしていきたい。
- ・ 実際に子供たちの具体的な姿から評価を考えていくことは参考になった。子供たちが意欲をもち、教師の指導改善につなげる評価をしたいと思った。